

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092700097		
法人名	社会福祉法人 豊前東明会		
事業所名	グループホームあやめ		
所在地	豊前市大字三毛門1348番地1		
自己評価作成日	平成28年 3月14日	評価結果確定日	平成28年5月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<ul style="list-style-type: none"> ・施設で掲げている理念を下に、一人一人のありのままを受け入れ、笑顔を大切に、いつまでも健康で楽しく生活を送れるように、支援しています。 ・家庭的な雰囲気を感じて頂く為に、ゆっくりと落ち着いた環境が提供できるよう、また毎日の生活の中で、一人一人のかかわりをしっかり持ち、入居者と職員が共に支えながら、家族のような関係で居られるよう、穏やかな生活をしていただけるホームを目指し、支援しています。 ・職員が全てを介助するのではなく、入居者自身のペース、何かをしようという意欲を大切にしています。また入居者同士が共同生活する上で、お互いに助け合って生活するという意識の中で、思いやりの心を持ち、互いに過ごしやすい空間を提供、共有しています。 ・一年を通し季節に応じた行事を取り入れると共に、施設内外のイベントを通じて、地域の人達とのかかわりを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年 3月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームあやめ」は平成25年11月に開設された1ユニットグループホームであり、母体は敷地内にケアハウスも運営する社会福祉法人である。暖色系の外壁が目を引き、色彩のように明るい雰囲気でも満たされている。開設から3年目を迎え、家族とのかかわりも増やしてきており、以前より協力関係も強まり、関係も深まってきた。隣接するケアハウスとの連携も増やしており、行事の相互参加や入居者とのかかわりで活気づいている。外出行事も全員で、を心がけて車いすの方も同じように外出を楽しんでもらっている。敷地も広いので、菜園を使った芋ほりや収穫祭なども行い、グループホーム主体の行事も増えた。関係法人系列で複数個所に施設運営されており、管理者会議や研修で情報共有や技能向上も図っている。今後も地域を支える福祉施設としての活躍が大きいと期待される事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あやめの理念を掲示し、毎日の朝礼で唱和することで、職員が互いに共有し日々の業務で実践している。また入居者が、その人らしく、生活の中でたくさんの笑顔が生まれる様、支援している。	開設時に職員と施設長で話し合っ作った「ゆとり、ぬくもり」を基本理念として、事務所内、食堂、厨房に掲示され、昨年からは毎朝の申し送り時に唱和するようになった。地域との関わりや入居者にも出来ることをしてもらうという気持ちが込められており、毎朝唱和をすることで気持ちの切り替わりが行え、理念の共有も進んできた。会議でも取り上げて地域交流の実践についても話されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭、敬老会といった地域行事に可能な限り参加し、その中で入居者が作成した作品を出品することも行っている。また地域中学生の職場体験、保育園等の慰問の受け入れを行い、交流を図っている。八月末に開催する夏祭りでは、たくさんの地域の方との触れ合いがあり、大変賑わっている。	法人の関係者に地域と関わり深い方がおり、地域の文化祭、敬老会には入居者も一緒に参加させてもらっている。地元の特産品のかぼちゃを使った地域の催し「カボウィンパーティー」には入居者も仮装して一緒に参加した。小学校からの慰問で子供神楽の受け入れなどはケアハウスと一緒に受けることが多い。地域ボランティアで琴や踊りなどで来てもらうことも徐々に増えてきた。	さらに開放された施設づくりを目指し、子供達にも来てもらえるような事業所単独での取り組みが検討されることにも期待したい。また、事業所からの認知症についての情報発信や、勉強会の協力などがなされていってはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域住民の方と認知症における相互理解に努めている。また広報誌を2ヶ月に1回発行し入居者の日常、施設の取り組み、支援内容を周知している。さらに地域行事への参加を可能な限り行い、外部との接触を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、その中で入居者家族、地域代表、市担当者、包括支援センター職員からサービスにおける意見や、アドバイス、情報を頂き、参考にしながら、より良い施設運営に取り組んでいる。また新聞の配布、議事録の公開、報告等を行い、周知を図っている。	家族は各回の輪番制にして、年間1、2回は全員が参加してもらうようにしている。食堂で開催することで、入居者の日頃の様子も見てもらっている。開設から2年経ち、参加者も顔なじみになることでフランクな話し合いができるようになり意見も活発になってきた。議事録は閲覧公開している。会議での家族の要望から事業所だより「ごきげんよう」を隔月発行するようになり、写真付きで行事の様子を公開して喜ばれている。	出欠の案内と一緒に意見や取り上げてほしい議題などを書く項目欄を設けることで、より発展的な会議運営や意見の引き出しにつなげていってはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、市担当者にも参加して頂き、相互の情報交換を行うと共に、会議内外問わず施設側の不明な事項等について、その都度相談し、意見、アドバイスを頂いている。	運営推進会議には毎回市の担当者にも参加してもらっており、その際に質問や意見交換、情報提供も受けている。市役所からの紹介で生活保護の方の受け入れもあり、担当のケースワーカーへの状況報告も行っている。運営推進会議参加時にも家族からの質問などに対して回答してもらった。おたより「ごきげんよう」は市にも配布し、状況報告につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室出入り口は施錠していない為、出て来られる方には職員対応で声掛け、誘導をしている。居室以外の各出入り口には、音楽センサーを設置し対応している。また高齢者虐待研修の中で、身体拘束防止についても学習し、現場での取り組みに活かしている。	玄関施錠はしておらず、センサーによって見守り対応をしている。不穏な際も付き添って外出し、徘徊リスクの高い方もおらず、離脱事故もなかった。市主催の高齢者虐待研修に参加し、内部での伝達研修も行った。スピーチロックなどに関しても、管理者が気づいた時に注意して気を付けるようにしている。	研修や学習を進めているが、全般的な理解をさらに深めていくために、スピーチロックなどのセルフチェックや気づきをもってもらうための取り組みがなされていくことにも期待したい。

H28.3自己外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、全体会議やケア会議の中で、職員間における周知の徹底をしている。また日頃から職員同士の声掛け、ケア方法の検討を行う等、サポート体制を築き、虐待防止に努めている。さらに外部研修への参加、現場でのフィードバックを行い、知識、情報の共有化を図っている。			
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、全体会議において、職員間における周知の徹底をしている。また個人情報や、権利擁護の中の高齢者虐待防止については、外部研修へ参加し、職員間での意識統一を図っている。	今までに制度利用された方はいなかった。昨年は市が主催する高齢者虐待防止の研修に管理者が参加し、社内での伝達も行ったが、権利擁護に関しての研修には至っていない。社内マニュアルの中に権利擁護に関しての項目もあり、閲覧できるようにしている。説明用に制度パンフレットも整備されている。	今後の活用に備えて、成年後見制度や日常生活自立支援事業に関しての研修参加や、勉強会が行われ、事業所内での周知が進んでいくことが望まれる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約内容や重要事項等について、利用者や家族の不安、疑問点が残らない様に、丁寧な説明を心掛け、理解、納得を頂いている。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段面会に来られた際や、運営推進会議の中で現在の状況を報告すると共に、意見や要望を聞く機会があり、その都度職員全体に伝達を行い、支援に活かせるように努めている。また広報誌の発刊、施設行事の際の懇親会、外部評価時のアンケートなど、徐々に相互理解の場が増加している。	昨年家族への行事案内を掲示板やおたよりでできるようになり、誕生会や行事への家族参加も増えてきた。月々の支払いを現金払いにしてもらうことで、面会機会も非常に多い。家族との交流も増えてきたことで、お互いにフランクな意見が出るようになった。個別にもケアマネから一筆報告をしており、状況を伝えている。外部評価アンケートも全員が回答され、好意的な意見も多かった。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する全体会議において、全職員の参加により意見や提案を出し合い、お互いに情報を共有している。また代表者は職員との個別面談を定期的に行い、悩みや要望を聞くと共に、意見交換を行い、反映するよう努めている。	毎月の全体会議は昼の時間を利用して、全員参加で行っている。ケア会議も同日に行い、毎月入居者全員の情報を共有している。対応内容やケア方法なども話し合い、備品購入などに関しても要望を挙げて積極的に取り組まれている。施設長とも個別面談機会も多く、年3、4回もたれ、日ごろからも意見を言いやすい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間の関係を近く保ち、何でも話せる環境を作るよう努めている。また、ゆとりある介護をするため、休日希望を取り入れ、職場環境の充実を図っている。給与では、資格の習得により、手当を付けている。			
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり、年齢や性別の制限は行っていない。また無資格でも本人の人間性を重視し、採否判断している。また業務においても、各々の能力に応じた配分を考え、出来ないことについてはお互いにかバーし合い、スキルアップ出来る様、職員全員で努力している。	男性は施設長と管理者で、全体では30～70歳代まで幅広い。無資格者でも採用し、入社後に資格取得に向けて勤務調整などを行っている。職員同士のコミュニケーションもよくとられ、会議などで話し合っている。料理が得意な職員や、経験の長い職員などで協力しながらサービスにも生かしており、レクでの作品作りなども入居者と一緒に取り組まれてきた。休憩時間やスペースの確保もされている。	職員への外部研修の案内、参加に向けた取り組みが検討されることが望まれる。	

H28.3自己外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	普通の業務中より、入居者に対する人権尊重についての啓発を行っている。また会議の中においても、理念に基づく内容が遂行できているか、職員間における周知の徹底をしている。高齢者虐待防止については、外部研修への参加も行っている。	他県での虐待事件をきっかけに、人権教育への取り組みの意見も変わり、市の外部研修にも参加した。運営推進会議の中でも家族から事件に関しての意見があり、今後の取り組みへのきっかけにもなった。	市や関連団体の行う人権学習や研修の情報を収集し、参加されることが望まれる。県や市の人権啓発部署や関連団体との資料貸し出し、講師派遣なども検討されてはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修では、併設施設職員と合同で、今年度は感染症、個人情報、介護に関する研修を実施した。外部研修では高齢者虐待防止についての研修受講を行っている。また会議の中で各研修内容のフィードバックを行い、知識や技術等を共有出来る様、努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設間で毎月ごとに管理職、中間管理職研修会を開催している。また普段から疑問や不明な点が生じたときには、関連施設に問い合わせ、アドバイスを頂いている。さらに施設イベント時に、関連施設との職員間交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前から利用者本人と会話する事で、少しでも信頼関係を築く事が出来る様、また本人の要望に対応出来る様、理解する努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や面接を行う中で、入居に際しての不安や要望などを丁寧に伺い、家族の求めていることを理解し、入居者、家族にとってより良いサービスが提供出来る様、努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず利用者本人と家族の意向をしっかりと把握し、必要に応じた支援を行えるよう努める。初期アセスメントの段階で、本人にとって自宅や他のサービスが必要であると判断した場合は、そちらも検討して頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、出来る事は手伝って頂き、一緒に生活をしているという事を実感して頂いている。また職員は、入居者とコミュニケーションをとる中で、互いに学ぶ機会を作ると同時に、助け合い、励まし等、共に暮らす大切さを共有出来るよう心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来館時に、入居者の施設での生活、受診状況について近況報告をすると同時に、家族と一緒に外出、外泊をされたときの様子を窺ったりと、入居者を介護支援する上で家族との連携が取れるような関係づくりに努めている。		

H28.3自己外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会の際には、居室にて気兼ねなく話ができる様、プライバシーの配慮をしている。また外出や外泊を希望される場合は、家族対応の下、馴染みのある場所に行き、ゆっくりと過ごして頂けるようにしている。	家族の面会機会は全体で非常に多く、疎遠な方もいない。一時帰宅や外泊する方もおり、中には一週間近く戻られる方もいた。馴染みの場所にも家族に協力してもらって市外に行ったり、外食も楽しまれている。面会もいつでも受け入れており、家族も気軽に訪ねやすい。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやレハビリ、食事等、食堂で入居者同士が共有できる時間を作り、孤立感を無くしている。またお互いが協力し合い、一つの作品を作成し、出来た時の達成感や喜びを皆で分かち合える場が持てる様に支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在入居していなくても、夏祭り等の施設行事やボランティア参加の声掛けを行い、来館し易い環境づくりに努めている。また退去した家族に会った際には、その後の様子等近況を伺い、場合に応じて相談、支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりから、利用者の意向や希望を職員一人一人が把握した上で、可能な限り利用者本位のサービスが提供出来る様、努めている。また家族の意向も反映させた上で、サービス提供を行っている。	基本的にはケアマネが携わり、独自の様式でアセスメントを行っている。関係機関からの情報提供や介護申請時の調査情報照会も行っており、職員間でも毎月のケアカンファレンスなどで情報を共有して必要であれば情報の追記もしている。意思疎通の難しい方は日頃の情報を家族に伝えながら把握につなげている。	介護更新時などでも、定期的にアセスメントの見直しが行われていくことにも期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、生活歴やこれまでのサービス状況、経過などの把握をし、入居後の生活に反映させている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、サマリー、業務日誌等から入居者の現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議、ケア(担当者)会議開催時に職員間で意見交換し、検討している。また入居者本人、家族、その他必要な関係者との話し合いから知り得た情報等も反映させた介護計画を作成している。	居室担当として、職員は物品管理や、家族への報告などを担っている。毎月の全体会議時にケア会議も行うことで、全員の状況を全職員で共有しており、毎日のプラン実施状況のチェックによっても、3か月ごとのモニタリングにつなげている。担当者会議も毎月のケア会議の流れの中で、職員から意見を聞き取る形で開催している。	職員一人一人が入居者を担当制で受け持つことで、職員のスキルアップを図り、より現状に即したケアプラン立案などにつなげることを検討されてはどうか。また、担当者会議にも家族参加や、医師の情報照会記録などを参照することで発展的な運用がなされることにも期待したい。

H28.3自己外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録と共に、朝礼や申し送り時などで常に職員間の情報、意識の共有化を図る様にしている。問題点があれば、その都度意見を出し合い、早急に解決するよう努めている。さらに会議の中等でフィードバックを行い、次回の計画見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のその日の心身状況に応じて、家族との連携により、職員による通院介助、外出など柔軟な支援、サービスが行えるよう努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭、敬老会といった地域行事に、可能な限り参加している。また地域中学生の職場体験、保育園等の慰問の受け入れ等も積極的に行っている。さらに施設の行事だけでなく、入居者の一人一人が楽しめる様な計画を立て、基本全員参加で地域との交流や入居者同士のより良い関係づくりを目指して、支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な方は家族対応で受診して頂いている。車いすで移乗困難な方や、家族対応が不可能な場合には、リフト車等で送迎介助を行っている。尚家族受診の際には、情報提供を行い、相互間で共有している。また普段より併設施設の看護職員と連携を取り、適切な医療処置に備えている。	事業所の提携医はいるが、希望されれば元々のかかりつけ医を継続することもできる。通院を基本としており、原則、家族に通院介助してもらい、必要時には事業所からの支援も行う。隣接のケアハウスに看護師がおり、必要時には連絡をとりあいながら医療対応に努めている。	家族支援の通院時の情報提供のために、医療情報ファイルや、医療の申し送り、情報提供シートなどで、相互に医療情報が共有できるような取り組みの検討がなされてはどうか。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設看護職員との連携により、24時間オンコール体制を整備し、緊急時における早急な対応をしている。また熱発時や状態が悪い時等も、その都度看護職員に相談、指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、職員が定期的に面会訪問し様子伺いをすると共に、病院関係者と情報共有の場を持ち、施設と病院で協力し合い、一日でも早期に退院できるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在まで看取りの事例はない。面接時、看取り時の受け入れは難しい旨を説明している。また入居者が重度化した場合は、早期に家族と話し合いの場を持つと共に、出来る限りの対応を行う。また協力医療機関の医師とも連携を取り、今後の方針を職員全員で共有する。	現状の体制で看取り対応は難しいため、その旨説明した承をもらっている。今までに重度化した方は医療機関と相談してつないできた。隣接のケアハウスには看護職員もおり、研修も受けているが、まだターミナルケアまでには至っていない。	看取りを行わない指針を定めているが、今後の状況変化に備えて、看取り対応できる病院との連携や、ターミナルケアに関する研修、勉強会、最期をどこで迎えたいかの意思の把握などの検討、話し合いがなされていくことが期待される。

H28.3自己外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成と共に、緊急連絡網、情報提供カードの整備により、急変時に迅速な対応が出来るようにしている。また併設施設職員と合同で、消防署の救急講習(心肺蘇生法・応急処置・AED)を行い、急変時に備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回開催している。またその中で、消防署緊急通報や簡易担架、消火器の使用法といった実践形式の訓練を行っている。さらに運営推進会議時に災害時における協力体制について地域との連携を深め、防災対策に取り組んでいる。	防災訓練は隣接のケアハウスと合同で行い、年2回のうち1回は消防署の立会いの下で実施した。夜間想定を基本としている。昨年は地域の防災訓練もあり、入居者と一緒に参加もした。ケアハウスは地域の避難場所としても提供体制をとっており、現在市とも協議中である。平屋建てで出入り口も多いため、災害時の避難もしやすい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人のその人らしさを大切に、会話の際には、目線を合わせ、相手の気持ちを考えての言葉掛けや、笑顔で傾聴する姿勢を持って、入居者の人格を尊重し対応している。職員の言葉遣いや行動が好ましくない場合は、職員相互間で注意を行っている。	一昨年は接遇研修を行ったが、直近では研修や勉強会の機会はなかった。入室の際も必ず声掛けをしながら入室することを心がけており、部屋の物品の取り扱いに関しても入居者に配慮しながら行うようにしている。おたよりの写真の取り扱いは事前に同意を得たものに留め、役所などへの報告をしている。	徘徊SOSやおたよりの写真利用も含めて書面での同意を取り交わすことで、今後のリスク管理を検討されてはどうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者が自分の思いを表出できる雰囲気づくりを心掛けている。言葉の表出が困難な入居者には、表情の観察、また端的な言葉で理解し易い話し方に気を配り、思いをくみ取る様、努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の体調や気分、ペースに合わせて、それぞれの希望に沿った支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がすべて衣類など準備すること無く、入居者個人が自分で着用する衣類を選び、更衣している。季節や気温に対し、適していない衣類を着用していれば、声掛けにて一緒に選び、その日その時にあった身だしなみやお洒落が出来るよう支援している。また移動美容室により、入居者、または家族の要望に沿うカット、毛染めをされている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士における食材、メニュー管理の下、美味しく食べられるように盛り付けを工夫したり、苦手なおかずでも半分は食べれるような声掛けをし、嫌々では無く、笑顔があり楽しく食事ができる配慮を心掛けている。可能な方には職員と一緒に配膳、下膳等の手伝いをして頂いている。また季節ごとに鍋をしたり、回転ずしや、ファミリーレストランでの食事も計画し、実行している。	隣接のケアハウスで栄養士が管理して、メニュー作成、食材手配を行っている。調理は所内で職員が行い、下ごしらえや、食器洗いなど手伝ってもらうこともある。調査時も品数も多く、地の食材を使った量が提供されていた。食堂でテーブルを一行につなげ、入居者と職員が全員そろって食卓を囲み、和やかに食事が楽しまれており完食率も高い。行事食の提供や外食レクなども行われている。	

H28.3自己外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立管理を行っている。好物だけでなく、苦手な食べ物でも、全て残すのではなく、少しでも口にできるように声掛けをして、バランスの取れたメニューを全量摂取出来るように支援している。水分はなかなか摂取できないので、皆で楽しくお茶を飲める時間を決めており、お茶菓子と一緒に水分補給ができるように心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ずうがいや口腔ケアをするように声掛けをし、習慣として身につけている。また、必要な方には声掛けや介助にて口腔ケアの支援をしている。夜間には義歯をポリデントにつけ、清潔保持に留意している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがある時以外も、状況に応じて定期的なトイレの声掛け、また介助を行い、安心して排泄出来る様、支援している。	入居者一人ずつ、半月ごとの排泄チェック表があり、トイレ排泄を心掛けている。夜間おむつ使用だった方が、トイレ誘導を行うことで、おむつが外れ、パット使用に状態改善されたことがあった。自分でできることはしてもらうことで、歩行改善して、自力でトイレに行けるようになった方もいる。失敗時も自尊心を傷つけないように配慮した声掛けを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時の食べ物や水分摂取、運動などにより、便秘予防を行っている。またトイレ介助時、下腹部のマッサージなどを行い、スムーズな排便が出来るようにしている。便秘が続く場合(3日程度)は、投薬を行い、排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人一人の希望、タイミングにより気持ち良く、可能な限りゆっくりと入浴して頂ける様、声掛け、介助支援している。また季節の行事浴なども行い、入浴が楽しい時間となる様、心掛けている。	三方向介助できる位置に浴槽が設置され、空調も備えられる。基本的には週3回、午前中の中の入浴で、順番は偏りがないように、曜日ごとに入れ替えており、拒まれる方もおらずそれぞれ入浴を楽しんでもらっている。希望されれば個別のシャンプーなど使うこともできる。皮膚観察も行い、必要が認められればケアハウスの看護師と相談して処置につなげている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けたり、夜間では眠れない方に対し、安眠(職員が話し相手となり、落ち着いて寝て頂く。眠剤の服用など)できる様、一人一人の生活リズムに合わせて支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細や用法については個人別の記録に添付してあり、各職員が目を通し、確認できるようにしている。また一人の職員が管理を行い誤薬防止に努めている他、定期受診の際に薬が変われば、その都度職員内で伝達し、服薬に間違いのない様、対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掲示物やタオルたたみ等、それぞれの得意分野について行っている。また毎日のレクリエーション、リハビリ体操の中で入居者の興味のある内容を取り入れ楽しみながら行っている。レクリエーションでは入居者の方が全員参加で作品作りを行い、完成品を飾り見て、喜びを感じている。		

H28.3自己外部評価表(GHあやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や梅見学、お雛さま見学などドライブもかねて常に全員で出かけるよう、支援している。また園外敷地内の散歩や、園外ドライブでの花見見学などにより、自然に触れる事の楽しさを感じている。その他本人、家族希望の外出外泊をされる場合もあり、精神安定を得られている。	外出行事も多く、お参りや、季節折々の花見、文化祭、蛍見物など毎月何がしかの行事を企画している。車いすの方も含め、外出行事は全員でいくことを心掛け、皆に楽しんでもらっている。敷地も非常に広いため、安全に散歩をすることも出来る。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	園内での金銭所持は、紛失防止の為、基本控えて頂いている。家族との外出時や行事の際、買い物を楽しめる様にしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡を希望された時は、必要に応じて事務所の電話を利用して頂いている。また職員を通じて家族へ伝言を行う等の支援も行っている。家族の希望により携帯の所持をされている方もいる。年末には、年賀状の記入をして頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下における壁飾りや、行事参加写真の内容を毎月変化させており、季節感を感じて頂くと共に、アットホームな環境を心掛けている。その他、玄関周辺の花や観葉植物をみて楽しんだり、水やりをして植物を育てたりと楽しまれている。	入り口横には幼稚園からの寄贈の絵が飾られ来客者を迎える。クリーム色の木材で統一されており、暖色系の外壁などと合わさって全体的に明るく、リビングの窓も大きく取られていることで、開放感がある。掲示物も手作りのものや季節の飾り物で飾られ、彩鮮やかに季節感を感じさせる。トイレは3か所、廊下も広く車いすでも行き来しやすい。キッチンも独立式で広く、調理もしやすい。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(食堂兼居間)にテレビ、ソファを設置し、入居者同士で様々な話をされたり、新聞を読んだり、思い思いに過ごしやすい居場所の提供をしている。また職員の声掛け支援により、笑い声が飛び交う空間づくりに努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、入居者、家族の希望により、慣れ親しんだ家具や日用品など、本人にとって馴染みのあるものを配置し、落ち着いて過ごせるように支援している。また観葉植物や花などの持ち込みも可能であり、危険防止に留意したうえで、自身に管理して頂いている。	フロアとは同じフローリング張りで段差なく入れ、開口も広く取られ、リビングからは廊下でつながっており、静かに部屋で休むこともできる。各部屋には花の名前と表札が飾られている。介護ベッドとクローゼットが備え付けられ、持ち込みの制限も特にされていない。ライトリモコン操作で調光機能もついており、ベッドからの操作も出来て喜ばれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには一つずつ名前入りプレートを設置し、利用者に分かる様工夫している。またトイレなど入居者が頻繁に使用するスペース角には、保護シートを設置し、車いす自走時等における怪我防止に努めている。食堂は、誰もが入り易い様に常に扉、ドアを解放しており、安全に過ごせるように見守り易い空間をつくっている。		